

## 7 炎症性指標としての高感度 CRP 値と脳梗塞発症の関係：久山町研究

研究代表者名：清原 裕

共同研究者名：湧川佳幸、谷崎弓裕、土井康文

施設名：九州大学大学院医学研究院病態機能内科

### 目的

福岡県久山町の一般住民を対象とした前向き追跡調査の成績をもとに、高感度 CRP 値が脳梗塞発症に及ぼす影響について検討した。

### 方法

1988 年に、久山町の住民健診を受診した脳卒中の既往のない 40 歳以上の住民で、高感度 CRP 値を測定しえた 2,592 名（男性 1,092 名、女性 1,500 名）を 12 年間追跡した。追跡期間中に、脳梗塞 129 例（男性 56 例、女性 73 例）の発症をみた。対象者を男女別にそれぞれ高感度 CRP 値の 5 分位で分け（男性 Q1: 0.20 mg/l 以下、Q2: 0.21–0.40mg/l、Q3: 0.41–0.71mg/l、Q4: 0.72–1.56mg/l、Q5: 1.57mg/l 以上、女性 Q1: 0.17 mg/l 以下、Q2: 0.18–0.30mg/l、Q3: 0.31–0.53mg/l、Q4: 0.54–1.09mg/l、Q5: 1.10mg/l 以上）、脳梗塞の発症率との関連を検討した。

### 結果

年齢調整後の脳梗塞発症率（対 1,000 人年）は、男性では Q1 群より順に 1.4、1.9、5.5、3.6、6.3 と CRP 値の上昇にしたがって増加し（ $p < 0.05$  for trend）、Q1 群と Q5 群の間で有意差を認めた（ $P < 0.05$ ）。多変量解析で年齢、収縮期血圧、糖尿病、BMI、総コレステロール、HDL コレステロール、喫煙を調整しても、Q1 に対する Q5 の相対危険度は 3.09 と有意に高かった（ $p < 0.05$ ）。一方、女性の脳梗塞発症率は 2.0、3.6、5.4、3.0、2.9 と増加傾向はなく、各群間に有意差はなかった。他の危険因子の有無別に男性の脳梗塞発症率をみると、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、肥満、喫煙の各因子を有する群はない群に比べ CRP の影響が強かった。

### 結論

福岡県久山町の一般住民では、高 CRP 血症は男性の脳梗塞発症の危険因子であった。